

第3回ソーシャルファームジャパンサミットinつくば ～就労困窮者の支援の仕組みをデザインするフォーラム～

特定非営利活動法人 コミュニティシンクタンクあうるず
〒080-0802 北海道帯広市東2条南4丁目10番地

助成事業の概要

（1）実施目的

わが国の経済状況は、世界から見ても豊かなように見えます。かつての食うや食わずの時代から、いまや飽食の時代ともいわれ、一見すると国民の衣食住はこれまでになく満たされているかのようです。しかしながら、情報化社会の進展、貧困層の増大、家庭環境の変化など、社会構造の影響を受け、ニートや引きこもり、さらに再犯を重ねる元受刑者など「長期失業者」の問題が表面化しています。そうした問題を解決するため、ソーシャルインクルージョン（社会的包摂）という考え方を中心として、福祉、医療、労働、教育、経済、産業等、多様な担い手と社会的弱者との連携も始まっています。

本サミットでは、日本で様々な理由によって就労が困難な状況におかれている社会的弱者に働く場を提供するために行うビジネス（ソーシャルファーム）を地域や企業、市民の連携のもと支援していくために、「補助金に頼らず自立して経済をまわすには何が重要で何が課題なのか」をテーマに議論をすすめ、先進事例などを共有するとともに、事業所同士が連携をしていく機会とします。

（2）実施日時

平成28年10月8日（土）・9日（日）

（3）実施場所

つくば国際会議場
〒305-0032 茨城県つくば市竹園 2-20-3
TEL:029-861-0001 FAX:029-861-1209

（4）実施内容

- ①基調講演 「我が国のソーシャルファームの在り方」
炭谷 茂（（社福）恩賜財団済生会理事長、ソーシャルファームジャパン理事長）
- ②シンポジウム 「農業と福祉でどう経済を回していくのか～日本とフランスの事例をもとに」
総合ファシリテーター 炭谷 茂
シンポジスト ジャン・ギィ・ヘンケル氏（仏ジャルダン・ド・コカーニュ創設者）
熊田 芳江氏（社会福祉法人 ころん 常務理事・施設長、福島県）
宮嶋 望氏（農事組合法人共働学舎新得農場代表、北海道新得町）
- ③話題提供 「デザインの力で製品を商品に変える」
宮島 慎吾 氏（武蔵野美術大学造形学部教授）
- ④ソーシャルファームの食材を使った夕食会
- ⑤国の制度紹介
 - ・厚生労働省
 - ・農林水産省農村振興局
 - ・法務省保護局
- ⑥全国の実践者からの報告 「ソーシャルファームが経済的に自立するためには何が必要か」
新保 祐宣 氏（社会福祉法人創志会 事務長、茨城県つくば市）
佐伯 康人 氏（株式会社パーソナルアシスタント青空 代表取締役、愛媛県松山市）
上田 浩司 氏（社会福祉法人さつき会 営業企画部長、福岡県宗像市）
佐藤 光浩 氏（株式会社スワン 社長補佐、

東京都)

- ⑥ソーシャルファーム現地見学会（昼食付き）
 コース① 「有機農業と生活の場」見学
 (NPO 法人 自然生クラブ & (社福) 筑
 峯学園)
 コース② つくばの「6次産業化と地産地消」
 見学 ((社福) 明清会 ほびき園 & (社福)
 創志会 つくばライフサポートセンターかや
 まる)
 ⑦ソーシャルファームの製品見本市

事業の成果

「補助金に頼らず自立して経済をまわすには何が重要で何が課題なのか」をテーマにした第 3 回ソーシャルファームジャパンサミット in びわこを平成 28 年 10 月 8 日（土）、9 日（日）に茨城県つくば市で開催した。就労困難者の仕事づくりや支援のために全国のネットワークを拡げようと、一昨年は北海道新得町、昨年は滋賀県大津市で開催された。日本全国から NPO や福祉関係者、自治体、大学ら約 300 名が参加した、ソーシャルファームを通じて社会的弱者の自立生活を実現する可能性を探った。

8 日は、当サミット実行委員長上野容子の挨拶からはじまり、来賓として茨城県、つくば市にお越しいただきました。ソーシャルファームジャパン理事長炭谷茂の基調講演では、日本でのソーシャルファームの必要性、定義についてから海外での取り組み状況について報告した。シンポジウムでは、フランスで 130 農場を展開し、社会的弱者の社会復帰に取り組んでいるジャルダン・ド・コカーニュのヘンケルを招聘し、ジャルダンが取り組むソーシャルインパクトボンドについてご紹介いただいた。そのほか、福島県こころの熊田芳江氏、北海道新得町共働学舎宮嶋望氏から活動報告とシンポジウムとして登壇いただいた。話

題提供は、デザイン導入事例として、茨城県つくば市創志会、東京都豊島区豊芯会について報告した。

9 日は、厚生労働省、農林水産省、法務省からの制度紹介から始まり、日本全国のソーシャルファーム実践報告があった。

(2) ソーシャルファームの食材を使った夕食会

8 日のシンポジウム終了後、日本全国のソーシャルファームで生産した農畜産物や加工品を食材としたディナーを提供し、約 200 名が参加した。

(3) ソーシャルファーム現地見学会

ソーシャルファーム現地見学会ではコースを 2 つ用意した。筑波山南麓をフィールドに、知的ハンディキャップのある人たちと共同生活をしながら、有機農業を中心とした環境運動に取り組む「NPO 法人 自然生クラブ」や椎「お弁当づくり」と「販売」を通して、働くための基本的な生活リズムを整えたり、仕事を続けるために臨機応変に対処できる力を育てている「(社福) 創志会 つくばライフサポートセンターかやまる」を見学した。合計で約 100 名が参加した。

(4) ソーシャルファームの製品見本市

障がいのある方や就労の困難な方々が福祉施設や事業所等で心をこめて作りあげた製品の販売促進と PR を図るため、「ソーシャルファームの製品見本市」を 8 日、9 日の 2 日間開催した。茨城県内 7 団体、県外 10 団体で計 17 団体が参加し、来場者に試食や試飲、販売、情報交換等を行った。また、厚生労働省と農林水産省の連携事業である農福連携プロジェクトの一貫として農福連携パネル展示も併催された。

成果の広報、公表

成果については、ソーシャルファームジャパンの Facebook ページ、事務局の NPO コミュニティ

シンクタンクあうるずのホームページに随時公表していく。

広報に関しては、サミットの内容を取りまとめた連載記事を全 8 回で、十勝毎日新聞に掲載させてもらっている。（11 月 2 日から連載開始。毎週水曜日に掲載）

■ 今後の展開

本シンポジウムは、日本全国からソーシャルファームを実践している現場の方々や行政、大学等様々な方が約 300 名も参加していただいた。一昨年は、北海道新得町で開催した第 1 回ソーシャルファームジャパンサミットはソーシャルファームジャパン事務局の NPO コミュニティシンクタンクあうるずが中心となり実行委員会を行い、第 2 回となる昨年は社会福祉法人共生シンフォニーが中心となり実行委員会を立て、滋賀県大津市で開催した。

来年度開催する、第 4 回の開催地、開催日及び事務局の選定は、ソーシャルファームジャパン理事会を開き、決定する。

ソーシャルファームという同じ志をもった人々が一同に集い交流を図る機会はこれまでなかったため、今後全国ネットワークの構築や情報交換の場としてよい機会となり、これをきっかけに、福祉事業者、農業者、民間企業及び行政等がネットワークし、互いに支援し合う全国的な協力体制づくりを行っていく。